

田中正造記念祭・ 記念演劇 「天地とともに」



総勢130人以上の出演者が、
事な演技を披露しました。

10月12日、田中正造翁没後100年顕彰事業のメインイベントである「記念祭」が開催され、記念式典や、環境活動に積極的に取り組む団体を顕彰する「田中正造記念表彰式」、市内小中学生による「正造へ手紙を書こう表彰式」などが開催されたほか、12・13日には記念演劇「天地と共に～田中正造を生きる」が上演されました。

式典で岡部市長は「環境問題・人権擁護の先駆者であった正造翁の精神を引き継ぎ、夢と希望のある明日を目指したい」と話し、正造翁の功績をたたえました。

記念演劇は、作家・水樹涼子さんの原作・脚本で、正造翁の生涯を妻・カツの視点で紹介。市民劇団「さの演劇塾」の団員と、公募による出演者、旗川・佐野・界の各小学校の児童、市民合唱団 Voice、佐野東高等学校コーラス部など総勢130人以上の方が参加しました。出演者は、7月から稽古を続けてきた成果を、両日約1,100人の観客の前で披露し、劇がフィナーレを迎えると満場の拍手が送られました。



田中正造記念賞

環境大臣賞：
NPO法人足尾に緑を育てる会(日光市)
栃木県知事賞：栃木農業高校
環境科学部
佐野市長賞：いそやま友の会、
菊沢川の清流とコウホネを守る会

災害時の物資供給に関する 協定書の締結



10月11日、市はNPO法人コメリ災害対策センターと「災害時における物資供給に関する協定書」を締結しました。

これにより本市で地震や風水害など大規模な災害が発生した場合、同センター所有の物資、および(株)コメリ全体の流通在庫から、本市の行なう救援活動に必要な物資を供給していただくことができます。

【防災メモ】 災害発生時、水道・ガスなどのライフラインの復旧には、最低3日かかるといわれています。ご家庭で3日分の食料・水などを常備しておきましょう。また、家族で災害時の避難方法、避難場所を話し合っておきましょう。

田中正造・未来への大行進



横断幕やのぼり旗を掲げながら行進しました

10月13日、田中正造・未来への大行進が行われました。この大行進は「没後100年記念事業を進める会」が企画したもので、田中正造翁の本葬の際、約3万人の弔問客が列をなしたといわれるものを再現し、惣宗寺から佐野駅前までを、正造翁の仮装などをした約800人が練り歩きました。

参加者や沿道に駆けつけた皆さんは、正造翁が目指した社会の実現に向け、正造翁の思いを未来へとつなげていくことを誓いました。





天明小校庭にて、元気いっぱいの児童たち

創立140周年記念
ふるさと天明まちあるき(天明小)

天明小は、10月10日秋晴れのもと、天明鑄物と田中正造をテーマに、「ふるさと天明まちあるき」を行いました。「仲間と共に故郷を歩き、心の目を使って、天明の宝物を見つけてください」との白澤校長先生からの挨拶の後、380人の児童が28班に分かれ、地図を片手に出発しました。



天明鑄物の梵鐘の下で、説明を聞きました(惣宗寺)

若林鑄造所では鑄物の歴史を聞き、鑄物づくりを見学。惣宗寺では正造翁の墓前に寄り、旭岡住職が突いた、300年以上も前に造られた天明鑄物の梵鐘

の重厚な音に、児童たちは目を丸くしていました。

この他、金山神社、観音寺、星の宮神社、佐野鑄造所跡を巡り、この日、天明の街は、赤白帽の児童たちの笑顔と歓声につつまれていました。

(市民記者 吉井貴子)



思い思いの店舗でそばを購入しました

第8回
佐野市そばまつり

10月12・13日の両日、田沼グリーンスポーツセンターにおいて、第8回佐野市そばまつりが開催されました。

会場では市内の農村レストランのほか、佐野そば商組合、足利そば商組合の計6店舗がかけそば・もりそばを500円で提供したほか、各地区のむらづくり団体などによる地場産農産物などの販売コーナーや、そば打ちの実演(体験)コーナーが設けられました。



秋晴れの中、大勢のお客さんが訪れ、思い思いの店舗でそばを購入し、そばの味と香りを楽しみました。

11月には各農村レストランなどで、新そば祭りが開催されます(詳細本紙15ページ参照)。秋の味覚をぜひご賞味ください。



ねんざ
捻挫することを
ヒッチゲルという

手や足に無理な力が加わると、くじいて関節などを痛めることがあります。このような状態になることを共通語で「捻挫する」または「くじく」といいます。方言としてはオックジクの使用が一般的ですが、外にフングス、フングリ(ル)ケス、ヒックジクなどもあり、中高年者に広く使われています。

「階段で足首をフングシちゃったもんだから、まだチョーガンニ(まともに)仕事もできネンで(ないので)、ヤンナツチャー(困ってる)よ」

フングスは「踏み返す」が変化した語で、踏み外すが元の意味です。同じ意味の語にフングリケスがあります。「踏み蹴り返す」の変化語です。

また「引き挫く」が変化して、捻挫するの意味になった方言にヒックジクがあります。

「コナイダ(先日)スキーに行つて、足ッ首をヒックジクちゃつてさあ、今でもそこんとこ触るとイテン(痛いのだよ)。とうぶんは仕事も運動もデキネカモシンネ(できないかもしれない)」

以上の外に、昭和初期頃まで使われていた方言にヒッチゲルがあります。

「石にけつまずいてデングリケツテ(転倒して)…。その時に手ッ首をヒッチゲツチャツタンだけど治りがオセー(遅い)ね」

ヒッチゲルは「引き違える」という語形とその意味が変化したものです。佐野ではヒとシの発音がいまいなため、シツチゲルという人もいます。

(市民記者 森下喜一)

